

大阪府高槻市

株式会社 中野農園

GAPの
推進

JGAPから
GLOBAL GAPへ



完全閉鎖型ハウス

(右) 中野代表取締役

取組内容

- 安全なスプラウト生産のため、JGAPの認証を取得。高槻農場では、収穫から出荷までのコールドチェーン化を図るとともに、輸出先を拡大するため、GLOBAL GAP認証の取得を検討。
- かいわれ、豆苗、ブロッコリースプラウト等のスプラウト(水耕栽培)、オーガニックスプラウトを生産。
- 商品は、「大阪産(もん)」のロゴマークの使用許可を得て販売。
- 商品をアピールするため、機能性表示食品の届出を行い、販売を開始。

取組に至った経緯

- 農林水産省の「国産農畜産物供給力強靱化対策事業」(令和2年度補正予算)を活用し、令和3年9月、高槻市に底面を全面コンクリート張りにした5,000㎡の農作物栽培高度化施設(農業用ハウス)を増設。
- 増設を機に、販路拡大のため有限会社から株式会社に変更。
- 昨今の、しっかりした衛生管理体制を求めるお客様の要望に応えるため、衛生管理を高度化してきており、その一環としてJGAPの認証を取得。



目視、金属探知機での異物混入検査

取組の成果

- GAP認証取得により、社内での工程管理の徹底の他、取引企業からの衛生管理に関する問い合わせにもスムーズに対応。

今後の展望

- 現在輸出しているアジア圏を足がかりに、他の国(地域)への輸出も視野に入れている。



大阪産(もん)、JGAP認証の商品

大阪府富田林市

乾農園

GAPの 推進

地域特産の海老芋を伝統農法で！



取組内容

- 100年続く農家の4代目で、なす、きゅうり、水稻の他、衰退しつつあった地域の特産である海老芋を「土寄せ」という伝統農法で生産。
- 2020年4月にJGAP認証を取得し、作業の工程管理とそれに基づく従業員の労務管理を行うことにより作業効率が向上。

取り組む際に生じた課題と対応

- 海老芋やナスは連作障害が発生するため、露地では海老芋 → なす → 水稻のローテーションで生産するとともに、水稻生産による稲わらを敷料に、また籾殻は堆肥に利用するなど有効利用に努めている。
- 多くの外国人技能研修生を雇用しているため、JGAP認証の取得に当たり、栽培記録等を従業員とアプリで共有するなど生産管理を徹底。

取組の成果(受賞等)

- JGAP認証取得後は、従業員の意識も変わり、自分の仕事に責任を持つようになった。
- 富田林の千両なすにはGABA(ガンマアミノ酪酸)が多く含まれていることが大阪府環境農林水産研究所の分析で明らかになり、大阪で初めて「高めの血圧を低下させる」という機能性を袋に表示できるようになった。

今後の展望

- 栽培面積や人員を増やすのではなく、自社に見合った規模の栽培を行い、社員のモチベーションを高めるとともに効率の良い経営により売上を伸ばしていきたい。



2020年4月にJGAP認証を取得



機能性食品表示

和歌山県かつらぎ町

和歌山県農林大学校

GAPの 推進

GAP認証を取得し、
柿の輸出に取り組む



柿の収穫を行う学生



審査会で説明を行う学生



輸出を行った柿

取組内容

- 和歌山県農林大学校では、農業の生産工程管理の国際的認証制度であるGLOBALG.A.P.認証取得に向けたカリキュラムを令和2年度から開始。同校で栽培する柿とトマトで、栽培における生産工程管理の取組を行い、学生自らが認証取得に必要な情報を収集、申請書類を作成しGAP認証を取得。
- 柿はGLOBALG.A.P.認証品として、令和3年度から香港へ輸出。

取組に至った経緯

- GAP認証の取り組みが全国的に増えている中、国際農業に対応できる幅広い視野と競争力を身につけた担い手を育成するとともに、安心・安全な農産物の生産に向けて、学生自らが生産工程管理に取り組むことに意義があると考え、GAP認証の取得を開始。

取組の成果(受賞等)

- 令和2年度に柿、令和3年度にトマトでGLOBALG.A.P.認証を取得。柿は令和3年度から香港に輸出しているほか、ショッピングセンターで学生による店頭販売を実施。
- 令和4年度近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール（GAP部門） 近畿農政局長賞

今後の展望

- GAP認証を通して、和歌山県農林大学校の魅力アップや、世界に視野を広げた人材育成などに生かしていきたい。
- ショッピングセンターでの店頭販売の機会を増やし、安心・安全な農産物の生産に向けた本校の取組をPRするとともに、学生に生産から出荷販売に至るGAPの価値を認識させたい。



GAP認証証明書の授与式

京都府南丹市

京都府立農芸高等学校

GAPの 推進

GAPを活かした 教育活動の推進



(GLOBALG.A.P.認証審査会の様子)

取組内容

- 京都府立農芸高校は、2017年にトマトでGLOBALG.A.P.認証を取得。さらに2021年にはメロンでもGLOBALG.A.P.認証を取得しました。
- 座学だけでなく実習を含めた教育を実践しており、農業経験がない入学生の多くにも、地域で必要とされるGAPを実践できる人材を着実に育成しています。
- また、農産物直売所「佐伯の里」にて生産物を販売するなど地域の活性化に貢献しているほか、地元小学校へグリーンカーテン栽培指導や、農場への見学受け入れを通して、小学生の農業への興味・関心を深めることに貢献しています。

取組に至った経緯

- 京都府立農芸高校は「京都府国際水準GAPモデル農場」に位置づけられており、GAPの取組の実践・普及に積極的に取り組んでいます。
- GAPに取り組むことで、生徒の「食品安全」や「労働安全」などの意識向上に努めており、GAPが実践できる人材を育成しています。

取組の成果(受賞等)

- 活動が評価され、「令和6年度近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール」において近畿農政局長賞を受賞。

今後の展望

- 京都府のなかで唯一の農業科単独校として、環境に配慮し、消費者を笑顔にできるトマトやメロンを栽培していきたいと考えています。



(ほ場内での労働安全の取組)

大阪府河南町

株式会社KANSOテクノス河南いちご農場

GAPの
推進

JGAPによる労働安全の確立



(イチゴの栽培ハウス)

取組内容

- 異業種からの農業参入でイチゴの生産を実施、JGAP認証を取得しています。
- リスク管理の一環として、独自のリスクアセスメントシートや危険予知活動表を活用し、労働安全、品質保証、環境保全などを意識した経営を実践。さらに、他の企業や生産者による視察・研修の受け入れなどを通じて自社の事例を積極的に発信しています。

取組に至った経緯

- 株式会社KANSOテクノスは「環境」「土木」「建築」の3つの分野を統合した総合エンジニアリング企業ですが、2020年に新たな経営部門として「株式会社KANSOテクノス河南いちご農場」を設立、イチゴの生産を開始しました。
- その後の経営拡大に伴い、2023年にはJGAP認証を取得しました。



(イチゴの栽培ハウス内部)

取組の成果(受賞等)

- 活動が評価され、「令和6年度近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール」にて近畿農政局長賞を受賞。

今後の展望

- 企業による農業参入は近年増加傾向にありますが、経営において様々な課題が生じます。今後も情報発信を積極的に行い、地域の牽引役として取り組みます。